大正八年六月一日發行　大正八年五月二十八日印刷納本　（毎月一回一日發行）　明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

Y.W.C.A.

基督教女子青年會

要目

第十六巻
六月號


齒の爲めに一番良い
ライオン齒磨
さわやかな芳香！
細かい粉末！
快い使心地！
LION
ライオン歯磨
ライオン石鹸
本舗 株式会社 小林商店
支店

第十六卷第六號

女子青年界目次

大正八年六月號

W. M. Vories and Company, Architects

Hachiman, Omi
and
National Y. M. C. A. Building,
Omote Sarugkucho, Knda, Tokyo.

建築 設計監督 ヴォーリズ合名會社

近江八幡町

東京出張所　基督教青年會同盟本部内

東京市神田區表猿樂町

電話本局六二四二

T. YAMAMOTO

絹物商 山本商店
電話本局三九九八番

EMBROIDERER AND DRESS MAKER

横濱市山下町六十一番地

No. 61, Yamashita-cho, Yokohama, Japan

Tel. Honkyoku No. 3993 (Near the Grand and Oriental Hotel)

Embroideries	**Ready Made**
Silk Linens and	Dresses Blouses
Cotton Crapes	and Under Wear

Always on hand at Moderate Prices.

前付四

女子青年界 第十六巻 六月號
大正八年六月一日發行

會說

活動寫眞と基督

河井道子

東京の淺草と云へば、何物に於ても高尚な連想が湧ません、其淺草の内にも淺草公園の活動寫眞館の區域は俗の俗たるものである事は、世間周知の事であります、先づ彼地に行つて兩側にヅラリと揭げある看板を觀て行くならば、實に殺氣滿々たるか、或は慾性放縱の見苦しき繪で埋めてあります、然るに此中央に世界に好評を博した宗教活動寫眞が三ッも東京市民一般に紹介されたと云ふのも面白い事であります、此三ッの活動寫眞はクオヴァデス（何處へ行く）、シヴイリゼーション（文明）、インタラレンス（赦すべからざるもの）であります、之等第一第二の畫中の中心人物は、イエス、キリストである事、第三にもキリストが罪ある女を赦し給ふ事や、十字架に上げられし痛ましき光景を、映し出されたものであります、此等の宗教畫を見物人は、如何に迎へたかと云へば、實に靜肅に、感激おく能はざる如く、緊張したる敬虔の態度で之を觀、彼等の同情を、或は感激を大拍手喝采で、表はすのであります、最も之等の大活畫は日本に來ると第一に上流社會の人々には帝國劇場の如き、最高の劇場にて紹介されるも

のであります故、淺草にて紹介される時には、其階級は拔にして中産、下級の者が見物人であります。勞働者も學生もあれば、女中も娘さんも學校教員、店員も交じると云ふ場處故、先づ普通一般の人々を代表してゐると云ふても、可であります、して見ると如何程イエスキリストと云ふ人物が普通一般の者に、深き印象を與へ、又如何程尊敬を拂はれて居るかと云ふ事が伺はれます、進んで基督が個人、國家世界人類に對し、如何なる感化と勢力とを及ぼされるか、又彼自身が人類と共に苦痛をなされつゝあるかを、朦朧氣ながら見物人の心に思はせるのは確であります。

我々の耳に時々達する事は、「基督教が衰微してゐる、信徒が腐敗する、異端が唱道られる、俗化が盛で基督教の精神は、亡びつゝある、其證據に教會の振はざるを見よ、神學校に生徒の少なきを見よ、教役者の僞善を見よ」と。成程之にも眞はありますが然し又宗派にあらず、教會と云ふ建築物にあらず、教義に非ざる基督が駸々として人心に深く突進され人生を征服されつゝある事は見のがすべからざる事實であります、僅か乍らも淺草などの俗氣芬々たる處に於てさへ人をして靜粛ならしめ其思を高き犧牲と正義人道の方向にひきつけさすると云ふのも自然の勢と思はれます。

歐洲の大戰爭の多くは舊教になる佛國領内に於て戰はれた事は誰しも知つてゐる事であります。かの國の山路には道標として十字架が立つて居ります、兵士が進軍の際或は塹壕を造る時に屢々此標を目にするのであります、今此處に一兵士の言葉を紹介いたしませう。

「吾等は絶えず此標に目が止まる、此大なる戰爭と十字架と云ふものが車の兩輪のやうに、相伴ふてゐて、十字架を見る時は此世界を平和にせんが爲に倒れた、多くの犧牲者の列を連想するのである。吾等が犧牲に倒れた兵士を葬つた時は、彼の埋葬の標として彼の名のみを記して粗末な白木の十字架を土の

上に置くのである。何一つそれには裝飾をつけない裝飾が何故必要か、十字架、白の十字架ほど無言の雄辯が他にあらうか、白色は今日大軍の聖色であつて、十字架は聖型である。獨逸暴力の大洪水を防いだ、自由の道線は將來に於て有形無形に判然に劃せられるであらう。英海峽からスウイッツルランド迄英佛兵士の墓上にある十字架は絶えず、犠牲を語るであらう。路邊や岐路に立てゝある十字架像について人々の意見は如何にあらうとも確かに佛國に於ける戰爭中此十字架像は兵士に大なる良感化を與へた事に就いては誰も否定は出來まい、そも此十字架は兵士に取つては、人生を解決したもので、戰と云ふものに就いては唯一の首肯し得べき道理であつた。今より人生の本舞臺に入らうとする若い兵士に敎へた事は歷史上に於て卓絶し、又人生の背景にずぬけて高く表はれて居るものは、神の子が死につかれた十字架そのものである。其故に歷史上にある凡ての山以上にガルバリ山は、空高く聳えてゐる、ハニバル、シーザー、ナポレオンは山の麓に立つた樣なものである、然し彼等は人の子即ちエスの十字架のそばに來るならば如何に賤しい、又些細なるものであるかは兵士に分つたのである。世界歷史の此地平線上に於て十字架のみ明かに輝き、他は皆その陰にあるやうである。

辻路にあつた十字架像や或は鳴り轟く大砲は、兵士に歷史と云ふものを別に敎へなかつたが、歷史の中心なるものを彼等に敎へた。基督の十字架は永久に世界大活劇の中心であつて、他はそれをあしらふに過ぎぬ。又兵士個人〳〵の經驗上から押せば、十字架と云ふものは、世界の生命の源にあゝもので、國家、國際の大危機に於てはいつも其が現はれ、又凡て個人の大問題の根には十字架がいつもある、斯くの如くいつも何かの問題を決しなければならぬ場合には、十字架がある事を敎へた。要するに他を救ひ他を幸福にさせる爲の苦痛が、人生の眞目的であつて、個人の享樂、利益を獲得するのが目的でない

と云ふ事も此十字架によつて知つたのである。

佛國の一小村を三年間戰線が通つてゐた。村と云ふは言葉のみで家一つ殘つてゐないが、不思議にも殘つてゐるのは唯一つの十字架像である、其まわりは皆平地となり十字架のみ空高く彈雨硝煙のうちに巍然として立つてゐる。僅か二三百ヤードづゝを隔てゝ敵の塹壕がある。基督の姿が此荒れ果てた戰場を常に眺めつゝあつた、幾百千の砲彈が其邊を吹き去つたか知れぬのに、不思議にも十字架像は倒れずに居た。迷宮のやうに塹壕中に我が軍の兵士が黎明に目醒て、外に出て第一眼につくは此十字架である又在塹壕に伏す時最後に眼につくものは同じく此十字架である、白中には其が鮮に見え、月夜には神々しさをあたりに輝らした。三年間晝夜キリストは十字架上より祝福を與へんが爲兩手を上げ、吾等兵士の中に立ち給ふた。兵士は寒き霜ふる夜、星の光で其基督を見、或は皓々たる月の光で基督の青ざめた御顔を眺め、又は嵐吹く夜に黒き影として彼を觀、折には爆裂彈の光で彼の姿を觀たのであつた。步哨が夜間警戒中に此十字架を觀た時の感は如何であつたらうか、或は將校が監視の爲巡廻し此目標のそば近く通つた時の感、或は塹壕にて休んで居た兵士等が寒さに堪えかね、はね起きて數步の運動中此十字架を觀た其時の感は如何であつたらうか、それらは到底言葉に盡し難い程深い感想である。此兵士と基督、塹壕と十字架との間には神秘的の同情がある然し又兵力、武力のみを賴んでゐる者には、十字架は何の聖い、尊い意味を與へないのである。其故獨逸兵は此十字架を目的として樣々に聯合軍を苦しめそれに又樣々の電氣仕掛をなして武器の一つとしたと云ふ事は、何と恐ろしい事であらう、基督の十字架を敵に對する道具に使用したり、自己の利益のために用ゆるやうになつた國民や個人は人道等を唱へたり、勝利を得べき權利は一つも無いのである。十字架に對する吾等の心の有ち方が吾々の運命を定めるものと云ふべきである。今此荒地に孤立してゐた

十字架に對する吾兵士の尊敬的態度を見て戰爭の武器、武力以上に基督及基督教そのものが敬畏されてゐる事を表はしてゐる。基督の十字架が凡ての時代凡ての國民の上に卓絶して正義と自由と眞の云ふ精神界の塹壕の中にあつても彼が擴げた兩手の保護の下に於て毅然として起臥しつゝある國民は、必ず永く繼續するものである事を吾々は深く信ずるのである。」

私共は今日活ける基督がかく全世界を風靡されつゝある事を信じて居るでしやうか。繪にあらず、像でない基督が我々に如何なる原動力となりて働き給ふかゞ大問題であります。然るに信徒なるものが往々にして、眞を捨て影を追ふひ、世は却て基督を憧憬して居る樣子ではありませんか。多くの若い方々が、聖書や基督教的の書物を讀みたい、神を知りたい、信仰の道を習ひたいと求めてゐるも、學校や家庭が其を禁じ、ために苦痛を感じつゝあるのに、信仰の自由を得た、或は信徒となりし靑年女子の中には可成基督者と思はれぬ樣に腐心する如き不忠實な人のあるのは何と悲むべきでありましやう。此等の人々は俗な小說や雜誌は文學と云ふ美しい高尙な名の下に歡迎し、恥つべき妄想、愚なる話、戲言、或は淫行虛榮に藝術美術の名をつけて衒ふ事は致しますが、眞面目な問題、宗教的の書物などは輕蔑し特に基督の十字架とか基督の人格とか、救の力など聞くも憂し其文字を見るも嫌だといひつゝ尙全然基督教を去り得ないのであります、私共如き小な、無きが如き者に輕蔑されたとて、其で基督の力が減ずると思ふは愚の至であります。

東都第一の帝劇に、或は罪惡の展覽會の如き淺草公園に於て凡ての階級に大感動を與へられし基督の活動寫眞は、眞の基督が世界人類凡てを實際に感化さるゝはしがきに過ぎません。此光榮ある基督に從ふ私共に尤と信仰を增し、彼に似たるものとなり、彼の代表者として立つ修養が必要であります。

講壇餘波

○昨今米國エール大學で新神學を研究した一人が歸朝して語るに、實に議論としては面白く、學說としては首肯する處は有るけれども、深く入れば入るほど靈を救ふ悦がなくなつて來た、故に斷呼として斯る研究を止め純福音に立ち歸り傳道なさんと、決心したとの事である。

基督教會の俗化した事は、其の餘興などで此を見る事が出來る、或は又其教會が主催の音樂會、園藝會等に於て明かに表はれて居る。某少女が女優になりたいと主張した事があるが、其動機を尋ねてみると某教會のクリスマスの餘興が彼をして、女優を志望するに至らしめたとの事である。淨瑠璃、舞躍等を催して、其によつて負傷を拂ひ擴張を計る等は、惡魔の手下になつたと同樣である。

○基督教信徒は如何しても一種特別のものがあるべきである、世には基督教信者臭くないやうにせよ、と云ふものがあるが、之は信者を世と同型にのれよと云ふわけである、吾等は基督型に入らねばならぬ羅馬書十二章の中に「心を替へて新らたにせよ」とあるが、此は卽ち變貌せよと云ふ意味である、吾等若し神の力によつて眞に變化するものであつたならば變貌せずには居らぬ、一見「彼は神の人なり」と認めらるゝ迄修養すべきである、然るに吾等の顏も常に俗型に入つて之を悦ぶ如きは、如何にも愧づべき事である、よろしく變貌を心掛くべきである。

○經驗は學說や議論に勝つて力あるものである、昔より神に對して經驗を有つたものは、之を說明が出

來ないが動かすべからざる信仰を來してゐる、一學生が指定されたる書物を讀みつゝ問ふて云ふに「此書物中にある如何程を信ずれば吾は信者とし、幹事として世に立つ事が出來やうか」と彼女は何事によらず理性に訴へ、議論を喜び其に因て凡てを決定する性質であつたが、彼の問に對し滿足なる返事を誰よりも得られなかつた爲、彼は下層の人々が參る處の講義所に、一夜列席して彼等の告白を聽いたのである、集會者は皆國法を犯した如きものであつて、其が悔い改め神についての經驗を語るのである。彼女が後になつて告白する事には、其夜自分も實に神の前には罪人であつて、神の救によるべき事等よく會得する事が出來た、此は議論以上である處の動すべからざる經驗である、信仰は神に觸るゝ經驗であつて、議論でないと云ふ事を悟つたさうである。

〰〰〰〰

○或牧師が聽衆の中に一人の少女が、如何にも憂はしげな。心配相な顏つきに氣が付き、彼女を呼んで其理由を尋ねた處、少女は堪えかねて云ふに、「私は父の金箱から金を盜んだので、教會に來て神に祈つても心配でなりません」と、牧師は「それなら其金を返し父君に白狀して御詫びをすべきである」と教へたが次の日曜日にもやはり此の少女の顏は心配の色で滿ちて居た。牧師の尋ねに答へて「金はツット返して措いたが、父にはまだお詫をしてをらぬから心配で堪りません」牧師は「金を返した丈では濟まぬ、如何しても犯した罪を詫びるのでないと、決して悅はなく又神の前に出たとて何の效もない事である」と悟した、次の日曜日に彼女は滿面に笑を堪へて愉快さうに見えたので此は語らずとも父に詫びて其罪を赦されたと云ふ事がよく分つた。此通り吾々信徒がよく神に祈る事があるけれども、如何しても滿足の出來ぬ場合があるが、斯る時には度々吾等人間同士の間に相濟まぬ事があつて――或人に詫なければならぬ場合、和睦をしなければならぬ場合に其等をしないで神に祈らうとするから、神に親しむ事

が出來ないのである。恰も少女が親に詫びないで敎會に來たやうなわけで、如何しても平和を得る事が出來ぬ。斯る事を意味して基督が仰せられた言葉がある、「爾もし禮物を携へて壇に往たる時かしこにて兄弟に恨るゝことあるを憶起さば、その禮物を壇の前に留まづ往て爾の兄弟と和ぎ後きたりて爾の禮物を獻ずよ。」(馬太傳、五章二三—二四)

基督敎と社會事業

留岡幸助

今日世界中到る處に社會問題がやかましくなつてゐる。日本でも新聞、雜誌に學者が盛に論じてゐるが、學者のみではない、敎育者も實業家も勞働者も皆一齊に同問題にさわいでゐる、かゝる場合に信者の立場として妙齡の婦人の直接に、間接に御助力を頂かねばならぬ大問題である。

抑社會事業とは如何なるものか、物質文明が著しき發達をした爲、富の分配の不公平が根本となつてゐるが、普通敎育は進んで來たが高等敎育を受け得るものゝ小數なる事即ち知識の不公平も社會事業に入つて來た、換言すれば文明の恩澤を不公平に受けるやうになつた結果、此むづかしい問題が起つて來るのである、此を積極的、消極的に救濟するのが社會事業である。

日本に於ける今日の大問題は人口の增加の結果食物不足を來たす事である、毎年七十萬の增加—人口千人に十四人增加—するが、如何なる子供が增加するか、犯罪者、貧乏人、病人が增加してば駄目であ

る昨年の米騷動は何を意味してゐるか、社會問題は衣食住問題である、人口增加については其相當の衣食住の設備が必要である。

扨社會事業は基督教でないと出來ぬ、米國は麥の産地であるが米の産地ではない、日本こそ第一の米の産地である、土地によつて農作物に變化のある如く、基督教と云ふ畑に社會事業はよく成長する、實に不思議である、佛教の畑に此種を蒔いて收穫の少量を見て基督教に改宗した人々かあるが、理由のない事ではない、社會問題、勞働問題、監獄問題は、基督教でないと不可である。同教は地の鹽であり、命であり、又世を照らす太陽である、弱きを救ふ大なる力である。

先づ第一に日本に起つた社會事業は孤兒院、監獄の改良である、原胤昭氏それと前後して石井十次氏が基督教主義で此等事業に着手せられたが今日此等は模範的事業となつてゐる、然れども監獄改良については、米國の宗教師ベレー氏が明治七年我國に渡來され、日本全國の監獄を參觀されてその改良の本原を拓いたのである、現今ミス、マクドナルド、ミスウエストの兩氏が監獄に出入して熱心傳道されてゐる、小管監獄典獄有馬氏も基督教を標榜して其精神を注入して居られる、最近大阪に社會事業救濟問題研究所か設立されたのも、石井氏の感化を受けた熱心な基督教信者の大原孫三郎氏が莫大の資金を投ぜられたのである、救世軍の勞働者保護、日本全國の模範的織業紹介所、白痴病院、低能兒病院、男女、靑年會事業、禁酒問題、肺病問題、癩病々院、特種部落の改良等第一に着手した者は皆基督信者である、議論ではない、事實である。かゝる不幸の人々に同じ人格を認めて兄弟として行くのは天の神は父である我々は兄弟姉妹である、神を愛する心を以て弱き者を愛する、それが卽ち神を愛する事であると、心から信ずるからであつて形式ではない。かゝる實例を見るにキリストの爲し給ひし事を倣つて行つてゐるのである。「なんぢら我が飢ゑし時にわれに

食せ渇しとき我に飲せ旅せし時われを宿らせ、裸なりし時われに衣せ病みしとき我をみまひ獄に在りしとき我に就ればなり」、即ち「なんぢらわが此兄弟の最微者の一人に行へるは即ち我に行しなり」。眞のデモクラシーは基督教にある、神の前に吾々が赤裸々となつて凡てが兄弟姉妹であると云ふ位デモクラシーは無い、日本には目下五百程の社會事業があるが諸氏は如何なる場所に行かれても兄弟姉妹たる一大觀念を以て、與へられた親船として多くの小船を助けて以つて一團となり日本國家に貢獻せられん事を望む次第である。

キリスト教女子青年會とは何か

大阪女子青會幹事

戰時、或は戰後のフランスに、英、米、本國にあさぎ色三角の活動は目ざましいものであります。このあさぎ色三角を表徴とせる女子青年會とはそも何であらうか。世界三十箇國餘に擴り八十萬人以上の會員を有し、唯一の婦人運動として世界に認められたる女子青年會は、今より七八十年前、英國に於て少數婦人の團體が青年女子の間に祈の精神を吹き込む目的を以てさゝいなる祈の會合をなしたるに初まるとは誰が思ひ得られませう。

此の運動は家庭、學校、工場に於ける各年齡、各階級の婦人に及ぼし、婦人事務員、看護婦、其他各職業婦人の間にも力強くのびて行つたのであります

かくして各所に共同事業を精神とせる團體を生じ組織を立てゝ一個の女子青年會となり互に機脈を通

じて祈りを以つて交り、又各種の研究にあたるやうになつたのであります。又進んでは數千の會員を有し廣大なる會館及多數の幹事等を有して活動するやうになるのであります。

或は學校内に擴り或は都市にのびたる女子青年會は、有力なる壯年の委員達と言はず、女學生、工女有職婦人、主婦、共に階級を打破して一個の人間としてキリストの王國を地上に建設する爲めに共同の働をなすものであります。

さてあさぎ色三角が表して居る目的を女子青年會は如何に果して居るでせうか。

第一、體操、遊戯、野外運動、サマキャンプ、衞生講話等を鼓吹して婦人の間に身體の健全なる發達を計り、又身體は神の宮殿であると言ふ精神を養ふ事によつて、三角の一邊が表して居る體育の目的を果さうとして居ります。

第二、土地の狀況、及教育機關の調査、研究をなして、其土地、土地に相應したる補充教育を計畫し境遇に適應して頭腦を働かせ得る婦人を養成し以て智育の完全を計つて居ります。

第三、最大の目的たる靈育を全ふするためには、聖書研究會、傳道事業研究、個人事業及團體事業の指導者養成等に努力し、或は旅行者の友、婦人の保護、人事相談等の働を供して各人に相應せる奉仕をなさしむるに務めて居るのであります。

基督教女子青年會は信仰を中心として結合せる婦人の團體であります、創立の時代に於て、組織及び活動の時代に於て我等の賴る可きは有力なる委員にあらず幹事にあらず、各個人の生活の中に働き給ふキリストの力であります。

萬軍のエホバのたまふ是は權勢に由ず能力によらず我靈に由なり。

（女子青年會金言）

女子青年會に對する要求

（一）　上海より　志立タキ子

今朝上海に着く筈でありましたのに霧の爲におくれとう／＼明朝と云ふ事になりました此船は日本の船ですから日本に居るのと變りない筈でありますけれども乗つて見ると大違ひ、日本の風俗習慣は日本の土地に於てのみ行はれるので一寸陸をはなれると直に日本人の世界の大勢に後れて居る事――反して居る事を感じますそして之ではならぬと思ふと同時に女子青年會の樣な内外人の親しく交際する機關の日本の爲に如何に必要であるかを思はずには居られませぬ本部委員の幹事の諸姉が此世界に無類な婦人を代表して諸外國の女子青年會と歩調を揃へて行くのは普通の考では出來ない事の樣に思はれますが困難ながらも連絡を取つて行けるのは一つ神を信じキリストの垂れ給ふた敎を奉ずればこそであります容貌言語風俗習慣は異つても信仰が同じで公私の道德の標準が同じであれば其所に必ず同情が起り理解が出來敬愛の念が自然と生じて來ますさうすると國籍などは忘れてしまいます女子青年會には人種の差別は始めからないのですから殊更に其撤廢などを云ふ必要はありません。東京は面積と人口から云へば世界の大都市であるのに社會的には何の設備も秩序もありませぬから其中でする東京委員と幹事方の働きは困難も多いだけに必要も多いと思ひます、敎育を受け見聞を廣くする機會を得た者は其特別の恩惠を幸の薄い姉妹に分つべきものと私は常に思つて居ります、生れたまゝ當然受くべき保護も受けず敎育も授けられず身體のみ自然に發達した女子が此誘惑の多い社會に何の用意もなく迷ひ出て罪を犯したとてそれを當人のみを罪と云はれませうか人には天使の樣な性と惡魔の樣な素質とがあるもので誰も相違はありません私共が幸びに國法又は社會の制裁を受

けるやうな罪を犯さずに來たのは不完全ながら敎育されて比較的良い境遇に置かれた故と思へば導く者がなかつた爲に人間の歩むべき細い道をふみはづした姉妹を如何して捨てる事が出來ませう、罪に陷つた者を救ふのは無論大切でありますけれどもそれにも増して願はしい事は若き女子を罪から汚に近よらせぬ事であります古來日本では女子を家內に置いて外へ出さぬのを唯一の保護法として居ましたがそれは大なる誤で女子が二十歳前後になつたら己の何たるを考へ人として父母兄弟姉妹に對する責任、社會人類に對する義務を思ひ己の意志を働かせて體面を保ち權利義務を行ひ得る様に敎育する事が心身を健全純潔に保つ所以と私は信じます、人の敎育は敎室のみで出來るものではありませぬ家庭こそ其品性を造るに力のあるものであります、家を離れて東京へ遊學する若い女子に取つては寄宿舍が一時の家庭でありますから委員方の御心つくしも多い事と存じますが舍監方の御骨折も一通りならぬ事とお察し申します女子青年會の仕事は未だ澤山御座います皆様お一人づゝの御健康と御幸福を祈ると同時に會全體の上に御惠多くあらん事を祈ります。

（二）　日蛋信亮氏談

俥には提灯は小さはしいもので幾ら俥が走つたとて高の知れたものである處が日本人は自轉車によく提灯をつけるので負傷者が多い自轉車のやうに早く早く走る車にはそれに相當した强い光がないと危險である此と同様に今日動力を用ひる工場に於て人のみは昔通りの取扱即ち粗食、長時間勞働で身體の持續する筈がない其故に西洋あたりで色々の經驗上職人を優待すると云ふ事はなすべき正當の事である日本も此點に於て早く覺醒しなければ凡てに於ての損失は非常なものである女子青年會の如きは是非工場主、重役、株主、謂ゆる資本家を覺醒し一方には工女慰安の道を講じてもらいたいもの。

（三）　渡邊轍氏談

女子青年會は既に色々の方面に着手されて居ると思ふが尙自分等の希望を述べると貧民長家慰問巡廻看婦の派遣、勞働者のため托兒所設置、一般の病院にある看護婦、電話交換手等の就職婦人の慰安、女學生の寄宿舍增設に重きを置いてもらひたいものである。

（四）　川澄明敏氏談

中流の下級程度にある婦人の顏を見ると如何にも營養不足で病的に見える男子は時々集會にも出るし會食もするし歸宅後も自分丈營養を取るけれども其妻たる者は全く營養物を取る事をせずして然も幼子を養育して行くわけであるから氣の毒である何卒女子青年會が此等の家族慰安の道を考へて頂きたい婦人一般に看護法、育兒法、衞生法等を敎へて彼等を敎養してもらひたいと思ふ日本に於ける嬰兒の死亡率は恐るべきもので百に對する二十五の割又人口とても增加するとは云ふが體質は惡いと云ふ事が徵兵檢査に因つて顯はれてゐるから如何しても婦人に此等の知識を與へる必要がある。

（五）　益富政助氏談

女子青年會には幹事養成と云ふ事が第一必要であらう指導者の位置に立つ者は早晚外國に於て養成される必要があるだらう如何しても見聞も廣いし知識を得る機會が多いから日本丈の敎育では社會事業に當るものには不足を感ずる然し多勢の働く人を皆外國に於て敎育を受けさせるわけには行かぬから日本に於て適當な養成訓練が必要である此點に於て救世軍はよい例を示してゐる日本基督敎繼續委員は社會事業のため養成學校設置の案を立てゝ居るから何卒此等のものが實現するとよい然し女子青年會の如き又特色を帶びた婦人の仕事はやはり特別な養成を必要とす。

多忙多望の記

河井道子

今回渡米された米國視察員四名の御供をして、名古屋に出立したのは四月三十日の午前であつた、折角東海道の風景を紹介しやうと思ふたが、汽車が出るや否や雨降りとなりて、世界無雙の富士山も雲にかくれ、濱名湖の翠松霧深く、名古屋に四時に下車するや謂ゆる盆を覆へすやうな大雨であつた、金城女學校より校長職員數名の御出迎へを受け、一行四人は同校へ、私は信者である服部若子夫人の御宅へ分宿する事になつた。

翌朝八時の禮拜に金城女學校に出席し、ミスホーの懇懃なる挨拶ありて十一時頃より、全校に女子青年會の近況を傳へる機會の與へられた事を感謝した昨今長崎から名古屋に移轉された男子青年會幹事ツルーマン夫妻を訪問し、名古屋市の發展をきゝ近き將來女子青年會も、彼地に來るべきものなるを教へられた。ツ夫人の話に近頃流行する一種の陶器西洋人形は皆名古屋市の森村工場で製造され、全部外國に輸出されるもので、之迄獨、佛で此種の人形が製造て、それが米國に輸出されたと思つて居たら、豈計らん日本から輸出されるのだと知つて非常に驚いたとの事である。その上西洋雜誌などから人形の着物の雛形を取り、巧みに洋裝させてゐるのは、日本婦人であるとか、聞く吾々も新知識を得た感がある尚名古屋には、諸方より家出をした者が落ち合ふ事が多い由で、其理由は同市は暮し易い處、仕事のある場所との評判が、斯く浪人者を引き寄せるらしい其故若し「旅行者の友」の如き事業が名古屋停車場に設けられ、適當なる職業案内所が設置されたら非

常な便宜且感化を興へる事であらう。
同夜金城女學校講堂にて公開演說會が開かれ、ミススタッフォードは「米國の婦人團體」につき、ミススカットは米國婦人の營所附近の働につき、ミスホースは米國婦人の家庭と社會の貢獻につき、河井道子は日本婦人の立場につき講演を催したが雨天にも拘らず、堂に溢るゝ如き大盛會であつたのは、準備委員の用意周到なりしを語つてゐる。
五月二日近江八幡のヴォーリス氏の經營になる、近江基督教傳道團を訪問する事になつた、又も雨天で停車場より同氏宅迄の田舍道は車夫に御苦勞であつた。直に同傳道團の經營になる療養院を參觀に出掛けた、此は慢性呼吸器病の治療を計る目的を以て設立された、嚴密な實費計算を旨とし絕體に利益を受けざる基督教主義の病院である。其位置は琵琶湖畔で美しい最新式な建築物と、其設備完整なるは、驚くの外はない。かゝる邊鄙な場所に斯くの如き歐米の療養院にも劣らない立派なものが設置されてあるのを、讀者の幾人が知つてゐるだらうか。病無き吾等もかゝる美はしい建物、後は山、前は青々たる田畑、其向に琵琶湖が幾重も相重つた山脈で屛風されてゐる、此天然の美を見る場所に願はくば幾日間か滯在したき心地が禁ぜられなかつた。各室を裝飾るチューリップ、矢車草、芍藥、薔薇等は庭園からのものである、秋は菊で美はしく近所の者が見物に來ると聞いたかさもある事であらう。病院の本館の外に構內には瀟洒なる數棟が散在して、何も心地よく見えた。
いつ迄も此處に滯るべきでない故に、四時頃辭し又此傳道團の經營になる建築部と出版部に案內され其處にて十數名の若い建築師が熱心に圖を引き研究をして居られるのに紹介され、又吉田悅藏氏の監督される通信傳道の記錄、公衆に貸與する基督教書籍又新聞雜誌等を見て、敬服したのである。
翌日は雨晴れても風烈しく、幾度か琵琶湖に船出して、近在の傳道模樣を視察し又天然の美賞へんと

せしも、能きなかつたは殘念であつた、幸にも翌日は上天氣のため米國の友人等は十分湖上に樂しむ事を得たとの事であるが、私のみは其午後獨り八幡を辭し攝津有馬に出かけた。

五月一日より女子青年會の外國幹事が、ミスアダムスの指導のもとに四日間の修養會を有馬に開いた其最終の一日を共にせんが爲に彼處に行つたのである。影淡き新月て停車場から有馬ホテル迄の道は美はしいと思つたが、翌日四日の朝太陽が山から谷にかけて浴せる光の美しいのを見て、初めて同地の有名なる事を理解した、然し風景以上に美しいと感じたのはミスアダムより、午前、午後三時間に亙る聖書の講義を聞き共に祈つた事である。其から其へと協議に忙がしく、僅か午後四十分許り散歩して、晩春の美はしさを見たが、何しろ話に余念なく、其夜十一時頃迄集會があつて景色を眺める暇もない。

翌朝五日は、一行十五人午前八時より三里の道を徒歩する事にした、各自の手荷物を大八車に載せて運ばせ、私共は三々伍々として其後に從いて行つた此道の美しさは到底實見ない者には想像だも出來ぬと思ふ。太古は噴火口であつたらうと思はれる地質や地形が、谷をなし山をなし赤土が幾うねにも層をなすかと思へば、其邊を深緑雫らん許りの樹木が落ち來る岩石を支へるかと思はせる。其邊を急はしい流が銀線の如に縫ふて走るを眺めてゐる間に忽ち大きな河原と變じ、細流が水源の乾かざるを僅に語つてゐるに過ぎぬけれども、夏季大洪水の時はさぞ恐ろしき激流となるだらうと思はせる巨大な巖石が轉々と撒布されてある、其河原を數分間沿ふて行くうちに、又道が迂廻して森の中に吾等を導き、老鶯が夏の來たりしを知らざる如く山躑躅を、梅と見てか歌つたゐるのも長閑であつた。此天然の美に接しつゝミスアダムスが經驗深き心靈上の物語、十字架の意味、聖晩餐の眞意、神の今日の苦しみ給ふ事、救の事など懇々と說かれてるをきゝつゝ、三里の道を歩んだ其經驗を姉妹方にわけたいと思ふた。大阪

についたのは十一時頃で、こゝで或者は東京或は京都或は神戸と別れた。そも大阪青年會は過去一ケ年間梅田附近の狹隘い一軒を、借りて創業に努めたが、上よりの恵と委員、幹事及會員諸氏の盡力とにより發展し、今回北區天滿橋筋一丁目九九番屋敷に而も電話附の家に、移轉する事が出來た、此がため幹事ミスハード及山本姉の苦心、勞力は多としなければならぬ、此處に山口あさ子氏(共立女學校出身)吉川清水氏(女子大學出身)の兩氏が甲斐〲しく働いてゐられるのを心から嬉しく思つた。

一日の夜、委員の一人を訪ね、神戸についたのは十一時過ぎであつた、いつも神戸に行くと我家の如く飛んで行くのは神戸女學院である。同校の教師生徒諸氏は常に歡迎を與へられ、自由に出入を許される事は此上なき感謝である、此夜も同校に行かんと思ひはしたが余りおそいので、學校を煩はすのも心苦しいので、何處か靜な家屋をと三ノ宮附近を探したが仲々見當らず、漸く數へらるゝまゝに歩き廻り小路に宿屋の瓦斯燈を賴りに、行くと、小奇麗な宿屋で、丸髷姿の女中さんが端座してゐるから一夜の宿を賴み、二階に案內されて上つて見ると外觀とは異つてゐる、部屋は三間しか無さそうである、導かれた部屋は二階の昇り口を大至急で仕切つたと云ふ三疊間であつて不潔な事夥しい。宿帳をと賴んでも仲々出して吳れず、寢床を敷いてと賴んでも容易にしない、朝より三里の道を步み大阪にて諸所を步き廻り、其上疲勞が出て早く寢に就んとせしが、十二時過ぎても夜具を出してくれず、いつそ外に出やうかと思ふ中に漸く他から借りて來たらしい蒲團が到來した。大急ぎでやすむと一時頃呼び起す人があつて何事かと思ふと「宿帳を」と出すので、腹立たしくもあり薄氣味惡くもあつたが凡てを守り給ふ神に任せ、翌朝七時頃迄熟睡したのは之又信者の幸福と云ふべきでならう。午後は神戸青年會の主催の下にオリエンタルホテルでハイカラな茶話會か開かれた。內外人男女合せて七十名近き來會者で、市長夫

人も御列席のあつた事は一同の滿足であつた。會長長谷塲まさじ夫人の開會の辭、磯部とよ子夫人のピアノ、調査員ミススカット、ミス、スタッフォード（通譯附）河井幹事の青年會の目的、及其將來等を簡單に述べ主客共に歡を盡して午後六時に散會した、之又委員幹事の非常なる準備の結果、かゝる盛會を見た事である。

七日は女子神學校内にて會員一同の親睦會が開かれた、神戸青年會は創立まだ半年しかならぬが既に二百三十余名の會員を有ちをるがまだ一回も相集ふて親睦なる機會を得なかつた故此催しがあつたのである。此會合にも長谷場氏の挨拶や幹事等の報告は會員に一層の勇氣と光明を與へた。

八日は大阪女子青年會第一回總會が午後一時から開かれた、先づ第一屋内に入つて來るや四方の壁に、青年會の事業及將來等の面白い揭示が目につく――種々の寫眞が一間程の紙に貼りつけて掛物のやうに下つてゐるし、衞生教育の揭示が巧みな圖畫で表はされたり、大阪市の地圖に會員の在處を記したり、青年會の要求を廣告されたりしてあつた――、會長淺井泰子氏司會のもとに山本琴子幹事は、青年會設立の準備時代、創立時代、組織時代、活動時代と會の報告を四分して綿密なる且つ興味深き報告があつた、講演や選擧等の後親睦會に移り、ピアノ、ヴァオリン、獨唱等の余興にて階上、階下人山にて立錐の余地なき程の盛會であつた、午後七時より又も引續き親睦會が催された。

九日、神戸にて幹事會を開き鐘ヶ淵紡績會社にでかけ、午後は磯邊氏宅にて其附近の婦人を招待して小さき婦人會を開き會の主意を述べ、會の親睦を計り六時半神戸を出て翌十日午前東京に於ける委員會に、あまり後れずに歸京し得、其午後同會の總會に出席する事を得て非常に多忙な愉快な十日間を送つた。六月五日より、ミスアダムスと共に又神戸大坂に集會を開くため出張するを今から樂しんでゐる。

弟の臨終

三島町　渡邊於菟

「永らくわづらつたのでもなし、殊に日頃頑健な質でもあり、どの樣な變化が起つて恢復しないとも限らない」と醫者には云はれてをるもの丶二十五日の朝には一段と面やつれし血色もわるく、素人目では到底助かりさうもなく見受らる丶のでありました。晝頃東京から百合姉が計らずも河井先生と共に歸宅しました。潤のまだ幼兒であつた頃から御存知の先生がわざ／＼御越し下すつた御厚志に御禮申上るひまをも惜みて、先生に早速病床に來て頂きました、先生は懇に見舞ひ慰め、神の惠と、信仰ある者の强さと、永遠の命と、天國との事をやさしく力をこめて御話し下されたのを一々うなづいてよく聽いてをりました。そうして讃美歌の「なつかしくもうかぶおもひ」(三三八)「はるかにあふぎみる」(三五七)の二つを唱ひ先生は特に潤の爲御祈り下さいました。その内に容態が險惡になり三人の御醫者が來て酸素吸入、食鹽注射、ゼラチン注射等しておる間に先生は私共に心配をかけない樣に東京へ御歸りになりました。

夕方になると病人は大層氣分がよくなりましたので七八の兄弟が枕邊に寄りそひ潤の愛唱な讃美歌「こげやすくひのふねを」(三一〇)「とわがたましひをあいするエスよ」(四四五)とを歌ひました。その時彼は衰へ切つた唇で私共に和して歌ひましたが途中で看護婦にとめられましたのでそれからは口丈動かして文句をあはせてをりました。

暫くたつてそこへ來合せた父と母と總勢十余人と云ふ大家族を弟は樂し氣に見まわし「皆集つたから

何かして遊ばないか」など云ひ、一人〳〵を指摘して御得意の藝が何だとか、似顔がどうであるとか云つて一同を笑はせ樂しい〳〵家庭の集りを二三十分間つゞけましたが、間もなくグッタリ弱つて夜の更ると共に刻々危險の狀態に陷つて參りました。

彼は日頃身體の强健なのに拘らず、何となくぼうつとした、張のない、内氣な處があつて自分の意思を明に表はさない樣な子でしたが、病が進むにつれ頭腦が明晰になり、大層ハキ〳〵して參りました。病苦の間々に云ふ言葉は、體の力こそなけれ事柄は非常に明瞭でありました。夜十一時頃私共一同に口をしめして貰ひ度いと云ますので代る〴〵しめしてやりました。

醫師から「もう恢復の見込はありませんから若し會はねばならぬ方があるなら今の内に御呼になるが宜しい」と、云はれた私共一同の心を知るや知らずや病める潤は昏々として睡つてをりましたが、やがて靜に瞼を開いて恰度其處に居合せた兄に申すには、世はまわり、地球がまわり、頭がまわる、之でも僕はなほるのですか」と。

今や彼はおぼろに死を知り初め「僕はだめですか」と問ふのです。私共の胸はドキリと致しました。看護婦は「キット癒りますから安心なさい」と答へましたが復問ひかへしましたので百合姉は、此の大切な臨終に空言を云ふのはいけない覺悟をさせて、望と喜をもたせて去りたい！」と淚をのみつゝ看護婦の席をとり弟の臥近く「潤ちやん、決して「駄目」と云ふ事はありませんよ、私等は永久も生きるのよいつまでも一緒に居られるのよ、唯樂しい美な處に一足潤ちやんが先に行くのですよ、きれいなよい處に行くのね安心して御出でよ！」と靜かにそれとなく天國を說きますと了解つた樣に點頭いてをりました、暫くしてまた「僕、なほらないなら治ないと云つて！」と切に問ひます、母は震聲にして漸く「潤や……安心してたゞ眠て起きればよいのですよ！」と聲を震はしました、私共信者の兄弟は未信者の兄

姉にこれ以上に死の事を明かに知らすなと注意されて前と同じ答を弟に繰返してをる百合姉に心を合せて只管神に御祈りしてをりました。

弟はしばらく默してをりました、其暫時の沈默！其は實に意義の深い沈默でありました。神からおぼろに示された死を確めんと人に問ふて明答を得なかつた彼に神は明に之を示し而して更に死に勝つ力を與へて下さいました。彼はもう私達にその如何を問ひません。明に死を目覺し己れの一生を顧み謙遜なる悔悟に入り「役にもたゝなかつた！」と靜かに叫びました。此の一語は更けゆく夜の靜けさを破つて私達の耳に響き胸を衝きました。一同涙ながらに感謝の意を表しますと又「何もやくにたゝなくつてすまなかつた……殘る兄弟姉妹が……どうか……僕に代つて……みんなで僕の分親孝行をして下さい」と息をつぎ／＼申します。目前の死を自覺し勝利に餘裕綽々として莊重に發した此の言葉ほど私達の心底に貫ぬき皆感激の熱涙に浸されつゝ聲も絶え／＼に承諾の意を表し「みんなで御前の分孝行するよ」と答へたのを聽き「石塔は野村さんか御父さんに書いて貰ひ度い」と求め一同が又承諾の旨を表はすのを聽き安心のためいきをつき「之でいゝ、あゝ安心した、もう何も云ふ事はない」と云ひつゝ何とも形容し難い平和の笑を口元に浮べ一同は思はず「まあ、いゝ顔つ！」と讃嘆の叫びを發しました。暫くして「御父さん」「御母さん」と云ふて兩親を枕頭に呼び特に兩親に早世を詫びました。

死の質問をする迄、何となく落附かない氣味のあつた潤が「やくにもたゝなかつた」の一言から、まるで變つたものとなり、弟の潤と云ふより一種特別な犯すべからざる潤となつたのは全く不思議な位でありました。若し神の御力がないとしたなら、どうしてあの變化がありませう。どうしてあの勝利が得られませう。若し來世がないとしたなら、どうして煩悶せずに居られませう、どうしてあの從容たる態度がとられませう。

御用の節は『女子青年界』の廣告で見たと御申添下さ

THE HOSPITAL PHARMACY.

GINZA. TOKYO.

TELEPHONE SHIMBASHI 2334

◎歐文和文處方調劑
◎歐米有名賣藥各種
◎舶來化粧品各種
◎醫療器械各種
◎舶來滋養品各種



東京京橋區銀座尾張町一丁目一番地

銀座藥品部

（舊聖路加藥品部）

電話新橋二千三百三十四番

弊店は正確誠實迅速を旨とし凡て責任を以て販賣致し候間何卒御用被仰付度候

囲む家族の涙にひきかへ、囲まるゝ濶は平和のほゝえみを絶やしません。せまりゆく呼吸の一息毎に家族一人一人に平和な袂別の笑を送るのです。そうして彼は其の席に居ない方をも思ひ起し先づ「河井先生に宜しく」と申し次に「野村さんに宜しく」と申しました。彼は時間が長びく爲に皆の身體の疲勞るを憂ひ私共が中腰で彼の周圍に居るを氣づかひ「すわつて」と求め看護婦が足をおさえて居ると「だるいでしよう、よしてもよい」と云ひ自分の苦みなど少しも訴へないで人の事ばかり申します。一息毎に彼の頭は自働的に左右に動くのを醫者とてとめ樣がありませんでした、その苦しき中より彼れはまた「雨宮さんに……匂……菫の鉢を……返して……」と頼みました、之は病床につく前に借りて來たのであります。

午前二時十分となりました、日頃書に興味を持つた彼は筆を執り度い氣になつたと見えて「筆々」と申します。急いで與へた筆をとり震ふ手で辛くも「津海ノハンタノム」と書き父に判讀を乞ひ「もうやめる」と云つて筆をおき、さも安心だ、嬉しいと云ふ樣にニコリと微笑みましたその表情の美しさに邊の者一同が云ひ合せた如く「あゝ清麗面貌だ！」とさゝやいて視線を彼にそゝいでをるうちに彼は最後の息を引とりました、一同無言にて彼を凝視てる事暫時、各自の信ずる神に哀心よりの祈を捧げました、熱心な日蓮信者の兩親は日蓮に祈願し、また兄弟姉妹四人の基督教信者は逝きし弟とのこる家族の爲基督の救と導とを默禱に余念もありませんでした。「皆濶の遺言を守りませうね！」と姉が穩に云ふ聲に一同我にかへり弟をみれば、手は合掌せ顔には平和な笑をのこし、神の御招をみとめ、喜んで私共の及もつかぬ美しき御國に導かれ行つた事。

斯くして弟は逝きました地味な十七年間の短い人につかへた生活を終りました、彼は世間に目立つ事は一つもしませんでした、が確に彼の使命を果した働は一々神に記憶されて親しく御許に憩ひ、安かに神に仕へ以前に勝る幸福なもので益々彼處にて敎育され、成長發達をつゞけにをりましよう。

ギヨン夫人傳（つゞき）

森田松榮

彼女の一行の航海は、今日のそれとは違つて、隨分困難であつた。ギヨン夫人は五歳の女兒が、おとなしく疲勞を忍んでゐるさまを、感慨多い筆でうつしてゐる。或所では一寸上陸して、昔からの信仰の友なるフランシスカン派の聖職を訪づれ、又或所では、自分がこれから往く傳道地の監督を訪づれたが、監督は彼女の到着を機として、スールの聖フランシスの墓畔で禮拜を行つた。若い時から、この聖徒の著述に親しみ、深い感化を受けてゐた彼女は、傳道の旅の途上、ゆくりなくもその墓畔に於て、監督達と共に禮拜をなし得たことをどんなに喜んだことであらう。生けるもの、死せるもの、あらゆる神民を一つに結び給ふ神の御前にぬかづいた時、彼女は、聖主にある聖徒の交をどんなになつかしく經驗したことであらう。其他所々に留まつた後、一行は無事にゲックスの修道院（おもに慈善事業にたづさはれる婦人達）に着き、そこの人々から歡待された。

天主教では各信者に、信仰上の相談役（寧ろ指導者）といふものがつけられてゐて、彼女にはペルトツト師が其役であつたが、彼女の外國傳道に贊成意見を與へてから、長からずして病死したので、監督の命に由つて、コンブ師が後任となつた。

ゲックスで彼女は、靜かな信仰生活を樂しんだ。これといつて任命はなかつたが、傳道と貧者の扶養に兒童の教育に盡す傍、香膏を作ることが上手だつたのでそれを以ては病者を訪問してゐた。監督は、彼女の勤勞に對して深い感謝の手紙を送つた。

其中彼女は「信仰によりて義とせらるゝ」ことを

力說した。今日の我らにとつては當然のことに思はれるが、當時は決してさうでなく、形式的に流れ、儀式の墨守を重んじてゐた天主公敎徒には解し難いことであつた。彼女は救主イエス・キリストは、過去の罪の罰より我らを救ふ給ふのみならず、恩寵を信じて全く身を委せ奉る人々に、眞理、謙遜、溫良、純潔、聖潔の靈を賜ふが故に、我らを現在の罪よりも救ひ給ふ神なりと說いた。彼女は自分が堅く信じたところをありのまゝに說いたのであるが、人々には解されずして、却て異端として見られた。或人々は彼女の說く所を信じて喜んだが、或人々は非難し憤激した。彼女は行く途に、反對と障害との高い壁を見た、が、我は何をも辭せず、聖主の御旨なりせば、この手もて、我とわが胸を傷つけもすべし」と堅く決心した。

此時に當つて唯一人彼女の說を是としたものは彼女の信仰上の指導者で、博學で地位も高かつた。コンプ師であつた。指導者とはいふものゝ信仰の經驗に於ては、彼女の方が上であつたので、コンプ師は却て彼女に敎へられ導かれた所が多かつた。「信仰によりて聖めらるゝ」敎理に就ても、實驗し體得した點に、彼女の方がはるかに先であつたから、彼は彼女を敬し重んじた、信仰が同じなのと、指導者といふ關係と、殊に周圍から理解されず孤立した境遇とは、兩人の聖主にある友情を深く堅くした。

その後、或公開の席でコンプ師がした說敎がかはらずも大きな物議の種となつた。彼の新しい敎理―決して新らしいものではなかつたのであるが、當時全く沒却されてゐた爲に、さう思はれた―は人々の注意を牽き始めてゐた頃なので、好奇心から聞きに來た人達もあり、人々は興奮してゐた。

彼は詩篇第四十五〇十三の「王の女は殿のうちにて榮えかがやき、その衣は黄金をもて織りなせり」に就て說敎した。彼に從へば、「王」とはキリストを指し「王の女」とは敎會をいふ。人間の原罪の墮落は事實であつても、眞にキリストの屬となり、キリ

ストと一致契合した人々は墮落から救はれるので、即ち「殿のうちにて榮えかゞやくのである。彼らはキリストの如く、純眞な愛を以て、利己心を離脱して、神を愛する。キリストの如く、彼らは天父の聖旨を成さんとする。キリストが彼らの內に形成されるのである。彼らは單に、キリストを信じ、キリストを通じて神を信ずるのみならず、この信仰の結果として、キリストの性質を有つのである。彼らは各自個人的に、聖パウロの如く「我生けるにあらず、キリスト我にありて生くるなり」といふ狀態に至るのである。かく說いて、コンプ師は、キリスト教徒の達し得る妙境を示した。彼はかうして、「聖潔」は單に說くべきものに止まらずして、體驗し得るもの、教壇の演題ではなくて、個人が感得すべきものであると說教した。

我々には隨分不思議のやうに思はれるが、人々はコンプ師の此教理を空想的なりとして排斥し異端と定めた。彼の反對者は異端裁判所に彼を立たせやうとして、說教の筆記を勝手に加減して、上職に送つたけれども、其後何の沙汰もなく、コンプは禍を免れた。

新教理の主唱者なる彼女はコンベよりも、反對者に一層恐れられた。コンプの博學、雄辯なる以上に彼女は、才能に秀で、諸德を兼ね、非常に聰明であると同時に、甚だ敬虔である。かゝる婦人の熱烈な獻身傳道を、怖れないものがあらうか。體よく彼女の活動を制止する爲に、反對者は彼女に、修道院長の地位を申出した。然し彼女は拒絕した。自分は院長たるに必要なる年限の修道院生活をまだしてゐないし、其所に永住して了へば、神の召命に立つことが出來ないとの二つの理由からであつた。

反對者が術策を廻らしてゐる間にも彼女は、泰然自若、貧者を扶け、病者を見舞ひ、讀み書きを教へるに忙しく、同時に、形式と事實、內的と外的等、信仰に就て、自己の信ずる教理を熱心に宣傳した。それのみならず彼女は、人々の偏見を訂すのには聖

書を讀ませるのが必要と知つたので、切りに人々に勸めて讀ませた。

或人々は嫉妬から彼女を排斥しやうとした、優越な女性が、單に「女性」であるといふ爲に、卑怯な嫉妬から苦しめられたことは、彼女一人が例外では決して無い。或人々は彼女の罪に對する峻酷な態度を厭つた。彼らは自己の罪惡を指摘されることを好まなかつた。此らの人々は彼女のことを惡し樣に監督に告げたので、前には彼女の信仰を敬し、善行に對し感謝狀まで送つた監督は、彼女の教理は異數なりと宣告した。

この苦しい立場に在りながら、彼女は、ふかい內的平安を味ひ、他より嫉妬せられ窮迫せられながら神に一層近づき得る歡喜を經驗し、單に信仰のみならず、身體の健康も、理智も、進み「われ祈りぬれば叡智我に與へられ、われ神にもとめぬれば、智慧の靈われに與へられたり」といふ恩寵の生活を深くたのしんでゐた。

第十四回夏期修養會豫告

今年の修養會は何處で何日からですかとの問ひに、本部の者は嬉しくもあり、心配でもありました。諸所を調べ、交渉もしましたが、今年は東京と定まり、講師方に依賴中であります。

會場　東京市麻布區鳥居坂町東洋英和女學校

時日　七月廿二日(火)夕より卅日(水)朝まで

會費　金壹圓

宿泊料　一日金八拾錢位

講師(依賴中)　今井壽道氏、植村正久氏、柏井園氏、西野貞子氏、古田富子氏、內村鑑三氏、安井哲氏、相良友彦氏、波多野傳次郎氏、田島進氏、其他數名

委しき順序書や報告は印刷次第發送いたします

何卒大勢の姉妹が、御友人を誘ひ御出席せられんことを願ひます。

委員　三谷民、長谷川喜多、小林富、今諏訪せい、井深花、山田千代、淺井治、森道、容尚貞、大川喜代、ミスクレグ、山田琴、青年會幹事六名

招かれし時（つゞき）

渡邊百合子

りん「御伯母さま、今日は皆樣を御つれしましたから昨日御約束下さいました樣に何卒西洋の御飯の食べ方を敎へて下さい。」

「皆さんよく居らつしやいました、りんちやん、御友達の御姓名は？　これも一つの禮儀ですから申ておきませう、知つた御方にあつた時に誰か御友達でも一緒にをるなら必度御紹介するのが禮儀ですよ、それをしないと失禮になるのです。」

りん「はい、御紹介いたします、この方は田邊芳子さん、この方は杉本富子さん、皆同級の方々で此度西洋の先生に御招をうけた方です。」

伯母「りんちやんと仲よくして下さつて有がたう御座います、今日は居らつしやるときいてましたから御待ちしていました、留さん恥かしからないでわからない事は何でも御たづね下さい、どん／＼申上ますからその御つもりでいらつしやい。」

富子「何にもしらないのですから、何卒御願ひいたします。」

伯母「それなら實物でいたしませう、皆さん學校の御歸りですから御茶を差上げませう、りんちやん其處に出てをる白いテーブル掛をこのテーブルにかけて下さい。」

二人「私共も御手傳してよろしう御座いますか。」

伯母「唯々、何卒、テーブル掛を折目の處をきれいにもつて皺のつかない樣にかけるのです。皺になつたのなど不可ません、富子さん、棚の御盃にのつてをるのを皆そろへて下さい。」

芳子「一體匙は如何おいてよろしいのですか。」

伯母「それは御茶碗の手と並行する様に御皿にのせるのです、まあ頂きながら御話しませう、さめませんうちに御上なさい。」

りん「御伯母様、御茶碗の下にある御皿を手にもつてよいのですか、それとも日本の御茶臺の様に下に置くものですか。」

伯母「食事の時にテーブルに向つて頂く時には別に皿をもち上げませんか日本の御座敷の様に疊の上に出されたりする時は必度御皿を左にもち右にもつた御茶碗をうける様にして頂くのです、兩方ためして御覧なさい、富子さん、貴女もう少しテーブルのそばに來ないといけませんよ、テーブルに胸が付く様に座るのもいけませんけれどもまた一尺も離れて座るなどは無作法の仕方なのです、りんちやん、そんなに頭を御茶碗の方にもつていつて飲むものではありません、體は正整としておいて眼と眼とあふ位の姿勢でのむのです。

芳子「スープを頂く時もやはりこうするのですか、頭を下げないで匙で飲まうとすると手が震へてこぼさないでせうか。」

富子「さうしたら御皿をもち上げて飲んでよいのでせう？。」

伯母「なれると匙を用つたつてこぼす事はありません、あわてないで靜にしてをりますと正整と頂けるのです、けれどそれが心配だからとてスープの入つた皿を今のむ時の様に手にもち上る事はありません。」

りん「之で一つわかりました、今スープを頂いてをるつもりで御茶を飲んでみませう、これでよいんですか、伯母さん？」

伯母「姿勢は結構です、けれどりんちやんの様にスー〳〵すゝつて音をたてるのはいけませんよ、御茶にしろスープにしろ音をさせないで靜かに頂くのがよいのです。」

富子「あら、如何しませう、こぼしました！」

伯母「袂からハンカチなど出して御ふきになつてはい

けません、その爲の側に布巾がおいてありませう、本當はそれを一番先に膝にかけるはづでした。」
富子「餘り美しくて勿體ないのですもの、汚せばまた使へないでせう。」
伯母「御客樣には一度毎に洗濯をしたてのを出すのが禮で夫で口を拭いたりするもので自分のハンカチ等でいたしませんのです。」
りん「それぢや布巾を鼻にも用つてよいんでせうか。」
伯母「それは〳〵いけません、ナプキンは食物に關係した事だけに使ふのです、鼻などには無論ハンカチを用ふのが當然です、ですから前に申た樣に白い清潔なハンカチをもつて行く樣にするのです、ついでに芳子さん、貴女の樣に御茶碗の中に匙を入れながら御茶をのむ事はいけせん、ちやんと御皿にのせて御のみなさい。」
りん「それでは匙などつけなくてもよいぢやありませんか？」
伯母「西洋では御茶でもコーヒーでもそれは熱いのを出します、御茶の加減をみるのに始めから茶碗に口をつけるとあつすぎたり、御砂糖や牛乳がよくまざらなかつたりしますからそれで匙をつけるのです貴女などはいきなり御茶碗に口をつけ「あつい！」など云ふ方でせう。」
芳子「本當に面白い事、少しもこんな事知りませんでした。」
伯母「其處にナイフやホークが出てゐますから一寸御敎へしておきませう、肉だの野菜など大きければナイフで切つて頂きますが、決してナイフを口に入れてはいけません。」
富子「まあ左樣ですか、家の御兄さんなどいつも肉をナイフの先につけ口に入れ頭をヅーと御皿の方につけてクシヤ〳〵と音をさせて得意に食べます。」
伯母「よく日本の男子の方などさうしますがあれは食事方を御存じないからです、西洋だとて極々もの知らずの亂暴な人等などそんなにしますが正整した家庭では子供の時からさういふ事は禁じてあります。」

芳子「うかゞつておいて幸でしたたね、それでも西洋の先生の處へ行つた時いろ〳〵まだ知らない事が出てきたらば如何しませう。」
りん「その時には先生にうかゞつたらよいでせうね。」
伯母「さうですとも種々のものが出てわからない時はよく先生に御きゝなさい、大抵先生のなさるのをみてその通にすればよいのです、何でもしらない事は知らないと云ふのが一番です、また嫌なものがあつたならば無理に食べたり、あら嫌だ何て云ふたりしないでだまつておけばよいのです、主人の氣のつかぬ樣になるべくする樣注意するとよいのです、もう一つ申しておきたいのは、いつでもですが特に西洋の方の處へなど參つた時に譯もないのにゲラ〳〵クス〳〵笑つたりしないのです、でもニコ〳〵したり氣もちよく話したりするのは食堂でも極必要です。」
りん「食べたり話したりどうして出來ませう。」
伯母「其はおちついて自然にしておれば出來ます、貴女方御家でもムッスリしてだまつて召上らないでせう。」
芳子「餘り御食事の時話すと叱られます。」
富子「御客樣の時はだまつてをります。」
伯母「御尤ですね、餘り御話をしすぎるのは惡いのですが西洋風から申と御客樣の御出の時は成可主客が愉快に御話をするのです、けれどもその話も野卑事や汚い事は禁物で、なるべくきれいな氣もちのよい話をするのです、さうかと云ふて誰かゞ話して御出なさる時自分が話し出す事などは失禮の事です。」
りん「それでは考へながら出來るだけおもしろく話しませう。」
伯母「それはよいが今貴女の樣に口に一つぱいものを入れながら話すのはいけませんよ、よく口に頰張つて口をきく人がありますが大變見苦しいのです。」
富子「それならば隨分御食事の時間がかゝりませうね。」
伯母「さうです、ゆつくり頂くのがよいのです、五分や十分でのみこんだりするのは體にも精神にもよく

ないと云ふてをります。」
芳子「終りに一つ御きかせ下さいませ、御招かれしたのですから何か御土産をもつて行かなくてもよいのでせうか。」
伯母「唯々それについて申さうと思ひました、そんな事決して心配には及びません、手土産と云ふ事は日本の悪い習慣です、何かもたなくては他所へ伺はれないなんて云ふ事は決してありません、何にももつて行く必要もありません、庭に咲いた美しい花とか自分の家に出來た果物とか野菜とかなら厚意ですからもつて行くのも結構ですがわざ〳〵御金を出して買ふなどしなくてもよろしいのです。」
芳子「まあ安心いたしました、これからも度々わからない事を何卒お教へ下さいませ。」
伯母「いつでも御出になれば何でもしつてをる事は申し上ませう。」

通信欄

本部の消息

春は活動の期とは云へ、昨今の女子青年會の繁忙さは一通では御座なく候、第一米國より五人の派遣委員が渡來され、續いてミスアダムスとて米國女子青年會本部の幹事學校聖書教授が御到著で、諸所に各種の集會があり、以前東京の幹事であつたミスベーチが一ヶ年御休養の後に再び日本に歸られ、新知識や、新實見を私共に分配しつゝあらせられ候、外國幹事が攝津有馬にて五月一日より五日まで幹事會を開きつゝある留守中に突然五人の幹事がシベリヤに行くなりとて日本に上陸し、皆本部の客となり候、其後樣々の都合にて未だ東京にて露語の稽古に時を移し居り候、東京にて體操主任なりしミス、フヲンダは一寸浦潮より歸られ候も又再び彼地に出立され、尚暫く米國赤十字社のため働かるべく候、

神戸幹事ミス、ニクソンは五月三十日該地にて結婚式を擧げらるゝ事に相成、其代理として夏休暇までレイ夫人とて神戸女學院長の御親戚の婦人が御助け下さる事と相成候、藤田とき子幹事も此夏中には米國に留學のよしにて同姉の爲には祝賀すべき事に候へども神戸女子青年會に取りては補ひ難き損失に御座候、東京にて料理科主任のミスパトソンも六月四日に御歸國に御座候多分二年後には再び日本に御越しの由故其日を今より待ち可申候、海老名彈正氏の御令嬢と御同船にて御洋行に候同船にて安孫子よな子夫人も桑港なる御主人の許に御かへりに候同氏の御母公須藤八重子様も益々御元氣つかれ候間安孫子夫人も御心安く御歸米の御事に候、御承知に候半が、同夫人は桑港日本女子青年會創立以來幹部委員として多大の御盡力を賜へられ候、又常に本部の事に御同情を給ひ、今回は數箇年分の雜誌代と金拾圓とを御寄附被下候、桑港の會にては「女子青年」と云ふ雜誌を羅府の方と隔月に御發行にて桑港にては川中仙姉（舊愛波）羅府にては長谷川たよ代姉御盡力による由嬉しく存候。

本部と東京横濱の女子青年會日本幹事職員十一名は五月十七日と十八日の兩日を相州鵠沼に送り幹事會を開き、眞面目に女子青年會の事につき相互に其缺點を指摘し、發展すべき處を考へ、ミスアタムスより指導を乞ひ、共に祈り共に奬勵し合ひ申候、會が擴張するに從ひ、働人の修養の必要を切に感じ申候、何卒諸姉には御遠慮なく幹事共に忠告すべき點は御申越被下度候、又會に對しての御要求或は矯正すべき處など御知らせ被下らば難有存候、今年の夏期修養會は東京麻布東洋英和女學校内に開催し得る幸福を御報知申上候、同校は芝公園にも近く閑靜にて便利なる處に御座候、家事に老練の名高き加茂先生が御賄の方を御引受け被下候故、此物價騰貴の際にても一日の食料を金八十錢に願ひ得候間何卒大勢御出席被下度候尙精神上の御馳走は東京にてあらん限りを盡すべく候。

中央委員會は延期致し候ゆゑ其報告は七月號ならではいたしかね候追々全國の女子青年會が發達につれて、本部の庶務も忙しく相成候間適當なる委員を多く得度く奔走致し居り候、幸にも今回近江八幡のヴヲリス氏に嫁せらるゝ一柳まき子姉は委員に御加はり下され、女子學院のロンドン先生も一員となり被下候ば力強く感ぜられ候。

五月中に廣岡惠三殿には故廣岡淺子夫人の記念として金壹千圓を御寄附被下候、武藤山路殿には金五百圓を神戸女子青年會に御寄附被下候など一同の感謝に不堪處に候。

青年會のピンが未だ出來ず御詫び申上候是非とも六月中には御註文に應ずる樣に可致候「女子青年界」は頁數も僅にて候へども可成諸姉の信仰の友となり、又會の消息を傳へ、讀者の期待を充たせ度努力いたし候間何卒御一讀被下度候、追々資金も出來る樣相成候はゞ頁數も增し、內容も豐富になし得候まゝ何卒困難なる今日は御同情を以て御助け被下度候。

米澤の讀者諸姉中には今度の大火にて御罹災の方あらせられ候や御按じ申上候、斯る災難にても益々信仰に御すゝみ被下る樣御願申上候。

東京基督教女子青年會報告

五月十日午後二時より東京基督教女子青年會第十三回年會を開催す、出席者約二百名、先づ司會者今西糸子氏開會の挨拶ありて後プログラムの順序に從ひ一同讃美歌三十五を歌ひ尾澤靜子氏の聖書朗讀渡邊百合子氏の祈禱之に次ぐ、一同にて讃美歌二五六を歌ひ二宮うの子氏の役員指命委員報告右一同賛成受入可決、次に加藤高子氏過去一箇年間に亙る事業の報告あり、秋元俊子氏の獨唱ありて後河井幹事の通譯にてアダムス女史の婦人の感化てふ愉快なる御講話あり、讃美歌四五四を歌ひ留岡幸助先生の「基督教と社會事業」と題する誠に適切なる御講演あり四五六の讃美歌にて閉會す、茶菓の催ありて五時

半散會す。
上代たの子、吉岡民子、秋元俊子、ミス、フイリツプス、佐藤降子、尾澤靜子、小室美惠子、ミス、ボーサンケット、富山時子、今西京子、田島重子、志立タキ子、二宮ちの子、羽仁おと子、內池氏

右十五名を東京幹部委員として選擧す。

市　部

四月二十四日午後一時半から山室ひな子姉の司會で家庭會を開き、菅原文學士の「服裝と色彩」と云ふお話を伺ひました、現代婦人の服裝問題から東西服裝の比較、中古時代の衣服と極く解り易くお話下さいました。シツクリと調和した色彩の品々を身に付け度いと思ふと先づ三十通りの品が入用になりますし時の流行に遲れずにと考へると一箇月目位には新調しなければなりますまい。そこで有る品で間に合せて行くとして所謂研究が必要になるのです。兎に角現時の流行は悲しい哉花柳界から始まりますので眞に上品に優佳な色彩は浮んでまゐりません。よろしく皆樣方が御思考なすつて……」と云ふ如うなおすゝめを頂きました。自由質問の折には經濟問題上よりの衣服改良など、なか〱深くお考へになつて居られる御質問があり。これにあてゝ居りました豫定の三十分に不足を感ずる程でございました。散會しましたのは四時半。

二十六日午後二時半から萬世橋驛構內中管調査課の方の親睦會がありました。學生部の方の御接待で一寸法師の歡迎ダンスに始まりプログラムの進むにつれて其の一つ〱が笑ふ事ばかりでした。造花競爭の折には僅かに二三分の中に咲き出し、それが次の瞬間には四人の方の頭に美しい冠となり、やがては花の王を招じて喜ぶ子供の樣に皆樣は手を拍つて喜ばれました。散會は灯し頃に程近い六時でした。

五月十七日午後二時半から東京驛構內中管文書課及保健課の方の爲に親睦會を開きました。上記の課からは七人それに東京驛の方、萬世橋驛の方が加はつて三十名近い出席者でございました。ミス、スミ

ス、ミス、ヒユーステッドのピアノ、青木先生や有志者の謠に學生部からの仕舞、獨唱などがあり後には皆樣で互に競爭遊戲など〻心ゆくばかり笑つて五時すぎお別れいたしました。

學生部及教育部報告

五月三日(土)午後、各級の方々寄宿舍の方々約三十名は市外戶山ヶ原に郊外散步を催した。山も丘も原も木にも草にも、一面にしたゝるやうな綠色で染められてをつた。三十人が少時忙しい社界を去つて、靜に小山の上を步き、又草の上に坐して心行くばかり讃美歌を秋ひなどした時には、一人々々を區別する種々なる事情、境遇、別々の學校、年齡など皆同じ綠の色で染り消された樣であつた。

五月八日(木)午後六時半より英語社交會開催、出席者三十餘名、久しくシベリアに赤十字社の下に働かれたるミス、フオンダより目下のシベリア避難民の狀況及米國赤十字社の活働につきお話があつた。仕事無く、衣食住なきあわれな露民を赤十字が救濟せる事を聞き、罪に滿ちた、不完全なる世の中に、かく愛の仕事の爲大活動をなせる赤十字社ある事を感謝せずにはをられなかつた。

英語科、料理科、タイプライター科、生花科は先月に變りなし。五月の英語の級の新入生三十二名。

五月二十四日よりミス、スミスを先生としてフオークダンスの級をはじむ。かねてより望んでをつた體育の組の與へられし事を感謝す。多くの方々が體育に興味を持たれて出席され、健康な肉體と精神を養はれる事を切望す。

又秋元俊子氏の御援助により五月に入り聲樂科及ピアノ科を始める事の出來た事を感謝す。かく女子青年會の教育部に體育、音樂の加へられた事は最幸な事である。未だ生れたての此等の級を精神的に又物質的にますます健かなるものに育てあげる爲會員諸姉の御祈禱と御盡力を願ふ。

橫濱キリスト教女子靑年會

四月二十二日より三日間會社にお働きの姉妹方の

爲め午後六時より三回つゞいてミセスフホレスターに御講演を御願ひいたしました集會毎に會するもの二十餘名「偉大なる發見」「發見の方法」「發見の結果」いづれも聞く人々の心の戸を開くに充分でありました、この集會を通じて導き友主キリストを知らんと決心した方々の爲め聖書の組を與へられました毎火曜日午後六時一日の働の後に同夫人を通じて導き友を見出さんと集はるゝ姉妹方のよろこび顔見る時は祈らずに居られません皆様もこの聖書の組の爲めお祈り下さいまし。

去年十二月より女中を失ひあはたゞしい生活を送り會の爲めあれもこれもと心のみあせり人手少なき爲め充分に働き得ざりし私共は寄宿舍に富士きよの氏事務所に青木ふさ子氏を與へられ感謝いたしこれより各自己がよろこびを捨てゝ主の爲め會の爲めに力を仰ふぎ横濱青年會を岩の上に強く建てんと望とよろこびに滿されて居ります。

五月十九日午後四時半より市内四つの宗教女學校の青年會新役員を會館に御招きいたし親睦をかね五つの枝が一つとなり本部により強い枝としてつらなり何かなさんと語り合ひました、河井先生より奬勵を頂き新たなる勇氣を得て時の過ぐるも忘れて語りました、各々に與へられし尊い使命を忘れずこの會館を主の最もよろこび給ふ事にさゝげ度いと祈つて居ります。

樣々の働き　（米澤なほみ記）

神戸市の中央目ぬきの場所、とも云ふべき西町四十三番地西洋館の三階に女子青年會事務所を開始しましたのは本年の二月でした。小さい一室のこと故來訪者に充分なる滿足をあたへる事の出來ないのは遺憾に堪ません。然し多くの同情者の援助により漸次成長し、將來は確に健全な發展を遂げる事が出來ると希望に充されて居ります。會そのものゝ働はさて置きまして、看板にＹＷＣＡとある丈でも通行、上陸の多くの女子に眞の意味に於ての友人であるこ

とを表示して居りますことは青年會事業の大なる助であると、今さらながらにも感ずるのであります。

現在の事業

一、社交部
(イ)B、G、C(ビヂチスガールスクラブ)
(ロ)N、C(ナインチヒングルスクラブ)
(ハ)レインボー、クラブ
二、移民事業
三、教育部
(イ)英語の組(令孃、夫人、事務婦人の爲、其外)
(ロ)音樂の組
(ハ)登山
四、宗教部
(イ)英語聖書
(ロ)日本語聖書
(ハ)夕の禮拜
五、講演會(毎月一回)
此外速記、料理、の組も人數次第で實行いたす積です。

■B、G、C(ビヂチスガールスクラブ)は實業に從事する若き婦人の集であります。神戸在住婦人數二十七萬五千四百四十一人の内實業に從事する者一萬七千百十一人。この多數の姉妹方に眞の慰めを與へる者は誰でありませうか。キリストの心を心とせる私共女子青年會員が、これらの人々の同情者であり、又指導者であるべき使命を有つて居るのであります。

B、G、Cの最も誇りと致すことは、第一に靈的方面の研究のために盡力せらるゝ姉妹の多きことであります。聖書の組もすべてこのクラブの方々によつて出來て居ります。又ある姉妹は多忙な時間をさいて編物をせられ、其によつて維持費の一部を扶けらるゝのであります。色々な方面より助けをうくる私共は感謝に堪へません。

■N、C(ナインチヒングルスクラブ)は看護婦のために設けましたので月に一回例會を催すことゝ致して居ります。看護婦長の方々が多くの若き看護婦等を指導下さいます將來の望としては、外部に對しての活動、則ち貧民窟に、何らかの働を致したいとの大なる意氣込みで有

ります。多分遠からずして實現される事を信じます。

■レインボー、クラブ　十歳より十四歳までの子供を集め未來の女子青年會の分子を養成いたします。別に何もこれとした事も致しませんが追ひ〳〵見學に伴れて出る積であります。皆が興味を持つて參ります。確に將來における女子青年會の活動家となるでせう。

■移民事業　最も望み多い、又必要な青年會事業の一部として着手じました。まだ設備も充分でありませんので講習會を催す譯に行きませんが、第一着として檢査場で渡米の心得などについて説明致ます。

渡米者の多くは、岡山、和歌山方面の者であつて女子の九分九厘は寫眞結婚なのです。其の人々の趣味を見ても敎育の低きことを知る事が出來ます。この人々を日本の代表者として出すには大なる責任が私共にある事を感ずるのであります。特にこの事業のために御助けの程御願い致し度いのです。

去る五月六日から河井先生に御來神を願ひ六日午後四時オリヘンタルホテルに、紳士招待會を催しまし主客共に滿足を感じました。

■七日午後二時半女子神學校に會員大親睦會開催。

■九日午後二時磯部氏宅にて婦人會開催、萬事好都合に參り盛會であつたことを喜んで居ります。この女子青年會が只今まで發展して參りし背後には、諸姉の多大な御助けと祈りのあること丶存じます。私共の希望と理想は、前途遼遠であります。然し神は必ず完成させて下さる事をかたく信じて、今後發展のために努力致し度いと存じます。

廣島女學校女子青年會

我廣島女學校女子青年會は再興後滿二ケ年の歴史をもち經驗淺くすべての設備も整ひませぬ故何卒皆樣その御つもりで御讀み下さいませ。

當青年會の組織は本科三年以上實科二年以上及師範科全部よりなり信會を正會員となし未信者を准會員といたして居ります、只今正會員六十一名准

會員百三十八でございます。校長ゲンス先生並に英、米の女子青年會に關係せられました塩見先生等が顧問として御盡し下され又御指導下さいます事は一重に神の御惠と感謝いたして居ります、會の内容は先づ左の如く分たれて居ります。

會　長　師範科二年　濱崎　薫

副會長　同　　　　　八幡敏子

書　記　師範科一年　珠川澄子

會　計　同　　　　　宮崎靜枝

其他音樂部、祈禱部、圖書部、訪問部、仕事部あります、會長副會長は全部をまとめてゐます書記は委員會及祈禱會親睦會其他種々の出來事を記載いたして居ます、會計は云ふ迄もなく金錢の出入をいたします、祈禱部はその名の如く主として祈禱の事に關し常に青年會の爲に或は學校の爲に國家の爲に凡て人類の爲に心をつくし精神をつくして祈り大いに覺醒を叫んで居ます、これは矯風部も兼ねて互に禮儀風俗より凡ての細なる事に至るまで改めつゝあります、圖書部は青年會雜誌を賣り又は近く設けられんとしてゐる圖書室も大いに力を盡すつもりで御座います、幸にシャナン先生の御同情により多くの本を借りる約束で御座います。訪問部は病氣等にて出席する事の出來ない人々のために或は手紙にて御見舞狀をし又直接園藝部で造つた花等を以て御見舞に行つてゐます、仕事部は園藝部も含みまして青年會に與へられた土地を耕し美しき草花をつくり之を病人に差しあげ或は望みの方に賣り仕事の方ではハンカチ、エプロンを縫ふたり編物をし或は足袋襦袢のつくろひ雜巾のさしつぎに至る迄この部でいたし少しづゝ基金を造つて居ます、音樂部は色んな集會の時なぞ麗しい音調で人の心を靜めさては慈善音樂會をなし廣く市民の御同情を請ふ等をして居ります。昨年當會にも會歌を作り共に作曲していたゞきました、その歌を御紹介いたしませう。

(一)二葉の峯に朝日かげ　さすや希望の色はえて
　　てらせばこゝにうば玉の　如方の闇も破れけり

見よ明け渡るヘルモンの　いたゞき高く榮光の
主は呼び給ふ輝ける　雲の柱を仰げよと
(二)月澄み渡る流川　眞如の光冴ゆる夜半
洗はゞこゝにむら肝の　心も清くすゝがれん
見よ岩ばしるヨルダンの　彼方の岸に榮光の
主は呼び給ふとこしへの　命の水を汲めかしと
(三)悠々上下二千年　遠き昔を今更に
思へばこゝに千早ぶる　神のみむねぞ忍ばるゝ
見よたそがるゝカルバリの　かろひの木より極光の
主は呼び給ふ人の子よ　我世にかてり安かれと

かく及ばず乍らも青年會を形造る事が出來るのは一重に卒業生諸姉の御盡力の功績並に皆々樣の御熱心なる御祈りに因る事とかたく信じて感謝いたします最早今學期には總會二回 新入會員歡迎親睦會等を開き御互に大に盡す覺悟で御座います。 先日委員ばかり集りまして今學期間の計畫を豫定いたしましたから御參考までに御知らせいたします内容は

(一)祈禱會　全部の祈禱會は學期の最初の火曜日にいたし其他日々一度づゝなし部會及懇談會を附屬する事になりました又各々組の祈禱會もする樣に定りましたが日は未だ確かに分りません

(二)聖書議、(三)講演共に牧師傳道師其他の方々を通じて有益な御話を伺ひ或は聖書研究をいたしたいと存じます。(四)懇談祈禱會の一部分として或は修養會に關して懇談いたす事に定められました

(五)仕事一箇月に一度づゝ各々級の教室にて仕事或は園藝をする事に定められました。(六)部會祈禱會の一部にとり部長部員の相談をいたす事となりました

先づこれ位な計畫でゐます、そして今年度より特に毎週火曜日の午後三時より四時迄を青年會に關する時間として與へられました事をも感謝いたして居ります、こゝに今學期豫定日割を御知らせいたします。

五月二十日全體の祈禱會及各部會　五月二十七日仕事　六月三日祈禱及懇談會　六月十日及六月二十四日聖書講演　六月十七日仕事　七月一日特に夏

期修養會について懇談會　七月八日祈禱會各部會先づこれ位な豫定でございます、委員會の事については一箇月一回最終土曜日の朝相談し他は臨時にいたす事に決定いたしました、尙來る夏期修養會委員の理想については時間の不足の爲次回にまわす事にいたしました略之等に從つて今學期のその時間及技能を捧げたいと存じます、何卒皆々樣この經驗なき會のために御同情下され御祈りの端に御加へ下され少しなりとも神の御榮の現はれん事を希望して居ります。

一金千圓也　廣岡惠三氏寄附

故廣岡淺子夫人の記念として女子青年會本部に御寄附ありたり

紹介欄

○地歴國語の教師を求む　臺灣淡水の女學校にて信者の女教師を至急要す、お志望の方は履歴書を添へ青年會本部へ御申し込み被下度候。

○職を求む　女學校卒業後小學校に奉職せし者一人、傳道學校卒業後直接傳道に從事せし者一人、タイプライターに熟練し商館に經驗あるもの一人、何も家庭教師、事務員、或は學校教師を志望す。御申込本部。

女子青年會のピン註文に應ず

一本金二十錢（郵稅別）

落穂集

○婦人と瑞寶章　今回勳功ある婦人に瑞寶章を賜はる旨勅令を以て定められたり。

○火事と女工　工場內の災害防止不設備なるに鑑みて東京府下の工場監督者等は其協議研究會を開けり。

○二の總會　日比谷公園にて赤十字社は五月二十六日、愛國婦人會は二十八日に總會を開く參列者は四五萬人なりと云ふ。

○花の日會　御成年式當日と奠都祭日とに八十萬個の花を賣り捌きたりと。

○天理教女學校　大和本山にて開會せし婦人大會にて其計畫を發表し其豫算額は四十萬圓なりと。

○婦女新聞　同紙は常に婦人問題に研究怠りなく近頃右の質問を教育者に出して回答をそへり。

一、現在の男子大學各科に女子を聽講生として入學せしむるの可否（無論座席に餘裕ある場合）及びその理由。

二、將來男子大學各科に女子を正科生として入學せしむるの可否、若し之を可なりとせば豫科なる高等學校は（イ）現在の男子高等學校を開放して女子をも男子と同一に入學せしむるか。（ロ）特別に女子高等學校を設くべきか。

三、各種專門學校（高等商業、高等工業、醫學專門、外國語學校、美術學校其他）を開放して女子を入學せしむる可否（素より男子と同一の選拔試驗を行ふものとす）。

○大阪婦人修養會　四月下旬に北教會にて開かれ馬場鉒作氏植村正久氏吉崎彦一氏等の講話聖書研究等ありたり。

○婦人傳道會社　日本基督教會の同社は五月十六日神田女子青年會館にて第六回總會を開き席上にて森明氏の說敎江原素六氏河井道子氏の演說ありたり。

○婦人問題講演會　名古屋金城女學校主催なる大典記念第九回講演會は五月一日に開かれ米國女子青年會の視察委員三名と河井道子氏との講演ありたり。

○日本全國　に於て毎年二十萬人の新女工を工場に收容する內八萬

人は一箇年中に退職し其八萬人中一萬三千人は結核性の病を有するものなりと。

○東京府郵便貯金科　には約二千人の女子就職す其七割は一箇年中に動搖す然るに此科に於ては六箇月の練習を積むにあらずば相當の事務を取り難き次第なれば婦女子の能率の擧らざるは當然の事なり

○初めて工場　に來りし女工千人を日中十二時間一週間働かせ二週間目には夜業を十二時間をさせて後體量を取るに平均一斤半を減ずと云ふ。

○勞働組合　飛彈の丹生川といふ所には村長を組長とし駐在巡査を副組長として一種の勞働組合がある一般に勞働者の保健衛生賃銀等に關して資本主に對抗して自分等の利益を擁護しやうといふのであるが今度その村から信州の諏訪地方へ製紙工女として出稼ぎをしてゐる百名ばかりの婦人を來年から成可く良い工場へ一手に纒めて就業させたいと同村の學務委員二名に訓導一名が諏訪地方の工場を視察した。（朝日新聞）

○三百萬圓提供　在東京の人にて過般内務省の新救護課長田子一民氏に對し、社會事業家養成の機關設置費として三百萬圓の提供を申込みたる匿名の篤志家あり。

○北星女學校　文部大臣指定を受け六月十日披露會を開かるべし。

○東京女學館　通稱虎ノ門女學校は生徒服裝華美を以て有名なるが今度校風矯正の意味にて下髮リボン化粧等につき校長より生徒一般に質素を旨とするやう注意ありし由女學界の慶事なり。

○日本に四十年間　長崎活水女學校前校長ラッセル女史は[illegible]餘年間日本の女子敎育の爲に貢[illegible]せられたり同氏は夙に女子青年會の如きにも同情を寄られ會創立するや直ちに幹事を長崎に派遣せよと申込みさへありし程熱心なりき今後老後を鄕里米國に送らんが爲歸國さる。

○革正基督教　五月中旬神田美土代町青年會館に於て基督教會革正の大演說會開かれ滿員の盛況なりき辯士は内村鑑三青木眞澄白石木之助中田重治の諸氏なり。

消息

○ミス、アダムス、御渡來以來休養の暇なく東奔西走して集合及個人を指導さる五月中旬は二週間東京女子青年會に於て聖書の級を開き、下旬は横濱にて同じ級を開き六月上旬は神戸にて中旬は大阪にて同種の會合を開かれ六月二十三日上海に出帆の御豫定。

○ミス、フオンダ、再び浦鹽に歸り赤十字社に働かる。

○安孫子夫人、ミスパタソンと同船にて六月四日桑港に御出立の御豫定、女子英學塾卒業の加藤花子氏も御同伴の由。

○青山英子氏、五月中旬上京され親戚友人を御訪問の後又大阪に歸らる。

○宮澤美穗子氏、四月下旬結婚され近々浚濶に赴かるゝ由。

○櫛田孝子、東京にて御就職さる。

○實生すぎ子氏、ミルスカレジを今年御卒業後はミシガン大學に御入學の由。

○ミス、ニクソン、神戸の幹事たる同氏は五月三十一日同市の實業家なるディクソン氏と結婚さる。

○ミス、ペーヂ、目下横濱の移民事業等を補佐しつゝ諸方訪問中なり五月二十五日は青山女學院女子青年會にて講話ありたり。

○青木ふさ子氏、横濱女子青年會の事務を暫く擔任さるゝ事となれり同氏は札幌北星女學校を御卒業後青山女學院に學び更に横濱聖經傳道學校に學ばれたり、御主人は船長にて南洋航海に從事されつゝある由。

○富士きよの氏、横濱女子青年會の寄宿舍の世話な手傳はる。

○一柳まき子氏、此度中央委員の一員たるを承諾されし同氏に六月三日明治學院教會堂にてヴオークス氏と結婚の嚴典を擧げらるゝ由。

○ミス、タピング、横濱幹事なる同氏の父君は餘程むづかしき御病症に罹られし由上よりの祝福を祈る。

○高島まさの氏、御夫妻御子女皆御病氣に罹られ其上令妹は死去されし苦しき御經驗の中にも信仰を固く持ち昨今は健康にあらせらるゝ由

○井戸本小夏氏、伊勢宇治山田市本町木戸初次郎氏方に保養中なりの由なり。

○渡邊百合子氏、令弟瀾君を四月下旬に喪はれたり。

○長尾半平氏、先般西伯利亞より歸京せられ又近日中同地に御出張の由なり。

○原田助氏、同志社前校長なる同氏は渡米せらる。

○釘宮辰生氏、米國外國傳道百年紀念會出席の爲渡米。

○矢島楫子氏、御病氣の由御全快を祈る者全國に多し。

○元良よね氏、故元良勇次郎博士の未亡人にして大平操姉の母公にあらせらるゝよね子夫人は今度女子英學塾舍監の任に當らる同塾の幸福此上もなし。

○海老名あや子氏、海老名彈正氏の御次女にて六月四日渡米され數年間は勉學の御豫定。

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵税	一部	一年分前金
内地	金十錢	壹圓
海外	金拾三錢	金壹圓四拾錢

廣告料（一回掲載）	
一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正七年五月廿八日印刷納本
大正八年六月一日發行
發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督教女子青年會　電話本局九九八番　振替東京二三七二三番
發行兼編輯人　河井道子　神田區北神保町十四番地
印刷人　前川吉次郎　芝區[illegible]町七番地
印刷所　右同　三[illegible]舍

御用の節は「女子青年界」の廣告で見たと御申添下さい

FRAMES, PICTURES, POST CARDS.

OKAMOTO, CH KYU-DO & CO,

OGAWAMACHI ST, TOKYO,　　TEL. HONKYOKU- No. 1100.

SOL AGENTS IN JAPAN

Cosmos Pictures Co. & National Art Co.

New York, U. S. A.

コスモス繪畫會社◎米國◎ナショナルアート會社

日本總代理店

額縁繪畫葉書輸出入

岡本地球堂商店

神田區小川町通

振替東京一九七〇番　電話本局千百番

一、銀器類

一、貴金屬寶石細工品一切

外國人交際用贈答用品充實完備

内地流行界より一歩づゝ先走つた品物のみ



○意匠、技巧優良

○價格低廉

○信用安全

○取引敏速

永年外國人向にて苦心の點品物に現はれて居る筈です態々横濱迄御用命の甲斐あると確信致します

横濱市辨天通一丁目拾貳番地

辨天商會

The meeting was opened by the President, Mrs. Asai; and Miss Yamamoto, General Secretary of the Association, made the report for the past year. She divided the work into the Period of Preparation; the Period of Cultivation; the Period of Organization; and the Period of Activity. Miss Kawai gave a bird's eye view of the world association, and the girls of the different schools took part in the entertainment. The activities of the association were well represented by attractive posters which covered the entire space of the building. In the evening, from seven o'clock, the girls and women who were busy during the day, came to celebrate this happy occasion. Miss Jane Scott remained with us several days to visit the city and see more of our work.

A dormitory for business girls has been opened. We are using a building which belongs to the Baptist mission. This will be a safe place for many girls who are working away from home. We wish to make this a practical demonstration to the community that a dormitory for girls is absolutely necessary in a big commercial city like Osaka.

KOBE

A reception was given for business men and their wives at the Oriental Hotel on May 6th. About seventy people were present. Mrs. Haseba, Chairman of the Promoting Committe, introduced our friendly visitors, who spoke on different phases of association work. Miss Kawai gave a resume of the Japanese association work, and made an appeal for the help of the community in fostering the new association. On the following day a fellowship meeting was held at Miss Cozad's school. It was the first time for the association members to come together. After addresses by Mrs. Walker and Miss Kawai on general association work, the chairman and the secretary of the association gave interesting reports on the work that had been accomplished during the past half year. It was a most enjoyable meeting, and every one present was inspired to do something for the association. Each one took home a pledge card for future subscription to the work. The budget of the association is Yen 5,000, and the committee and association members are untied in their efforts to raise this sum. They are very much encouraged over the receipt of the first gift of Yen 500. from Mr. Muto, the head of the Kanegawafuchi Spinning factory.

Miss Esther Nixon was married on May 31st to Mr. Edward Dixon of Kobe. Mrs. Ray, a cousin of Miss Charlotte De Forrest of Kobe College, will take Miss Nixon's place in the association until summer.

Nominating Committee by Mrs. Ninomiya. The following. ladies were elected as directors for a period of three years, Mrs Shidashi, Mrs Komuro, Miss Philipps, Mrs Tajima and Mrs Uchike. Miss Adams of the National Training School in New York, and Mr. Tomioka were the speakers of the afternoon, and Miss Akimoto sang very acceptably.

Miss Fonda, former physical director of tne Tokyo A ssociation, who returned for a short visitfrom Siberia, spoke at the monthly meeting of the English Speaking Society on some of her experiences in Siberian Red Cross Relief work.

On Satudy, May 17th, about 12 girls from Tokyo Central and Manseibashi stations were entertained in the association, The afternoon was spent in games and mnsic; Miss Smith, a Y. W. C. A. secretary en route to Siberia kindly played the violin.

YOKOHAMA ASSOCIATION

In the transfer of Governor Ariyoshi and Mr. Fujita to Hyogo Ken, we feel that we have last good friends. They were always interested in everything for the improvement of the community, and all special welfare. Mrs. Ariyoshi is a member of our association and Mrs. Fujita a Committee member.

Mrs. Forester of our Committee gave a series of talks on the great adventure in life, finding the "Great Friend," on the 22nd, 23rd and 24th. The meetings were especially planned for those not yet Christians, and over thirty girls attended. Among these were many of our newer members. A new Bible class for inquirers has resulted from the meetings. Mrs. Fonester has had wide experience in teaching the Bible to young women, and we are especially fortunate in having her in Yokohama, where Mr. Forester is in charge of work for Chinese.

Miss Jean Paxton, secretary of the Canton, China Assn. Visited us on her way to America. She sailed on the Empress of Asia.

Miss Belle Rowlen, one of the secretaries on her way to Siberia, is stopping with us, and helping the association, as she is delayed here for a short time.

On the 26th the annual big lecture was held at the Memorial Hall. Prof. Yoshino of the Imperial University and Mr. Miyaki, editor of the Boeki Shimbun, spoke to a well fitted house and an enthusiastic. audience. There were rather more men than women present, but also a large number of the regular association members and of students.

We have just sent off on her way to Hawaii a young woman from Okinowa Ken. She and one from Korea represent the farthest spots from which any of our guests have come to the dormitory on their way abroad.

OSAKA ASSOCIATION.

Our house warming party and first Annual Meeting took place on May 8th at the new association building, 99 Itchome, Tenmabashi, Suji, Kita-ku. It was an all day meeting and the house was altogether too small to accommodate the number of people who came. Our five American visitors and Miss Adams were present.

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN
(JOSHI SEINEN KAI)

Vol. XVI June 1919 Number 6.

Miss Charlotte H. Adams, Director of Biblical Studies in the Y. W. C. A. Training School New York, Miss Jane Scott, Executive of the Northwestern Field Committee, and Miss Mary Page arrived in Japan the end of April. They went immediately to the South. After a few days Miss Adams and Miss Page returned to Tokyo. Miss Adams has had one Bible class for Missionaries and English speaking Japanese, and another class for graduates and school teachers. Both of these classes lasted four days. Similar classes will be held in Yokohama, Kobe and Osaka. Miss Adams expects to sail for China on June 23rd. We all hope that she may return to America by way of Japan after she completes her visit to China and India.

The Japanese secretaries of the National, Tokyo and Yokohama associations had a two day's conference at Kugenuma, near Kamakura. Miss Adams was with them and her lectures on Leadership and Philippians were a great inspiration to the secretaries.

The Summer Conference Committee met twice during May. Through the courtesy of the faculty of the Toyo Eiwa Jo Gakko (Canadian Methodist) the Committee is able to announce that the conference whis year will be held in that school from July 22nd to 30th. Miss Tami Mitani, Chairman of the Summer Conference Committee, will lead the conference.

Five American secretaries for Siberia arrived on the Empress of Japan May 1st, and are busily engaged in studying the Russian language pending their departure for Vladivostok.

Miss Fonda has returned to Vladivostok to continue her Red Cross work.

Miss Patterson will sail June 4th for Canada. We hope that she may be able to return to Japan in the near future to help with the association work.

Mrs. Yona Abiko, who has been visiting her mother, and Miss Tsuda, her sister, for the past several months will sail for her home, San Francisco, June 4th.

Miss Page is spending a great deal of time in strengthening the emigration work in the Yokohama association. During her recent uisit to Honolulu she became very much interested in this phase of our work, and feels that it should be developed more and more.

Mr. and Mrs. Keijo Hirooka have made a gift of Yen 1,000. to the association in memory of their mother Madam Asa Hirooka.

TOKYO ASSOCIATION.

The annual meeting of the Tokyo Association was held on Saturday, May 10th, at 2pm. Mrs Imanishi, the vicepresident presided. After the opening devotional exercises, the report of the year's work was read by Miss Kato, the general secretary, and the report of the

女子青年界第拾六卷第六號（毎月一回一日發行）
大正八年五月二十八日印刷納本　大正八年六月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認